

ディプロマポリシー		電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。												99 単位																
配当単位数合計		13単位				20 単位				配当単位数合計		14 単位		10 単位		12 単位		6 単位		8 単位		8 単位		99 単位						
M2 M1	前期	● 必修科目 不関講科目				グローバルテクノロジー特論b 1 材料・デバイス開発実務特論 3 グローバルテクノロジー特論a 1 応用数学特論 2 応用物理学特論 2				エンジニアリング・コミュニケーション特論 1 CAD/CAM特論 2 自動車工学特論 2 グローバルリーダーシップ特論 2 フィールド研究 4 フィールドプラクティス 4				M2 M1 前期 後期		ソフトウェア工学特論 2 通信システム・方式特論 2		エネルギー・環境工学特論 2 パルスパワー工学特論 2 電力工学特論 2								99 単位				
	後期					航空宇宙工学特論 2 技術経営特論 2 国際化特論 2				半導体エレクトロニクス特論 2 表示デバイス工学特論 2 フォトニクス工学特論 2 電子物性特論 2				光・エレクトロニクス 情報・通信		半導体エレクトロニクス特論 2 光機能工学特論 2 計算機工学特論 2 電磁波工学特論 2 情報工学特論 2		エネルギー・機器		パワーエレクトロニクス特論 2 メカトロニクス特論 2 プラズマ工学特論 2		制御・システム		材料設計工学特論 2 エネルギー変換工学特論 2 加工学特論 2		材料実験力学特論 2 流体工学特論 2 伝熱工学特論 2		機械制御特論 2 接合工学特論 2 航空工学特論 2		年間履修上限単位数なし
分野		数理科目		学際科目		専門横断						分野		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械力学		熱・流体		設計・製作		年間履修上限単位数なし		
カリキュラムポリシー		・ 専門に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 ・ 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 ・ 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なものの見方と考え方を確立する。																												
アドミッションポリシー		「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず邁進できる学生を求めている。 (求める人物像) ・ 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・ 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・ 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																												
ディプロマポリシー		4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】主体的に生涯学習を継続する意欲と関心 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解】技術者に求められる文・理・情報系の素養 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の変遷に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】専門分野の知識・技術(詳細は学科DP) 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】相互に理解し議論するコミュニケーション能力 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と協働的に協働し取り組むことができる。【意欲・協働】他者との協働による課題解決力 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動力がある。【理解・応用・倫理】社会に対し能動的に貢献する行動力 ◆注:「3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる <電子情報システム工学科> 電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 数学や自然科学などに関する基礎的知識と技術に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識と応用能力【A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】 (B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識をもち、地球的な視野で持続可能な社会貢献の自覚【B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】 (C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身に付いている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーション【C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】 (D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力【D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】 (E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】 ◆注:「1)」はディプロマ・アブリメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示																												
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文社会科学および「電子・情報技術」の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーションが実現できるとともに、実践的な課題を解決する能力を備えている。				工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の体系的知識を「理解・応用」。自然環境との共生を志向し、広い視野・判断ができること、実践的に協働し取り組むこと、他者との協働による学修意欲を促進する。				数学や他の自然科学関連の体系的知識を「理解・応用」。自然環境との共生を志向し、広い視野・判断ができること、実践的に協働し取り組むこと、他者との協働による学修意欲を促進する。		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。		分野別到達目標 電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。		技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子・光工学の基礎となる材料物性と電子・光デバイスに関する知識を身につけ、それらを組み合わせた電子回路の知識と設計手法を学ぶことで、実用のシステムへ応用するための知識と能力を身につける。		現代において、身の回りにはさまざまな装置、機器、組織、制度、方式は多様な機能要素の有効な組み合わせで作られたシステムである。昨今の複雑で困難な数々の問題解決にはシステム化技術が必須であり、それはシステム思考、システム構築、システム運用からなる。システム分野ではシステムの分析、設計、評価に必要な不可欠な理論と技術を身につける。		情報通信に不可欠な数学的知識や電子機器の機能を関連付け、デジタルデータを効果的に扱うことができるハードウェアとソフトウェアが融合した情報システム、及び情報を伝達する通信システムに関する知識を学び、習得した知識を実用システムの利用と開発に応用する能力を身につける。		卒業に必要な単位数 124単位						
配当単位数合計		-				-				配当単位数合計		33 単位		6 単位		24 単位		10 単位		18 単位		91 単位								
学部		2 5 4				4				3		4		3		2		1		2		1								
前期・後期		哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本語の歴史(2) 法学(日本憲法論)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリアⅠa(1) オーストラリアⅡb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) 工学コミュニケーション英語基礎b(1) キャリアイングリッシュⅠa(1) キャリアイングリッシュⅠb(1) キャリアイングリッシュⅡa(1) キャリアイングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)				微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 標準と統計Ⅰ(2) 標準と統計Ⅱ(2) 宇宙・地球・生命-探究演習(1) 工学倫理(2)				級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 確率と統計Ⅰ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2)		インターンシップ(2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)		卒業研究		電波・通信法規 2 情報と職業 2		電子回路設計 2 ディジタル電子回路 2 半導体デバイス工学 2 光エレクトロニクス 2 半導体デバイス基礎 2		AI・機械学習 2 情報理論 2 コンピュータシステム 2		メディア情報開発 2		通信方式Ⅱ 2 ネットワーク工学 2 ワイヤレス通信工学 2 通信方式Ⅰ 2		10 単位				
前期・後期		世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ベシック・イングリッシュa(1) ベシック・イングリッシュb(1) オーストラリアⅠa(1) オーストラリアⅡb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)				解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 解析学Ⅳ(1) 解析学Ⅴ演習(1) 線形代数Ⅰ(2) 線形代数Ⅱ(2) 物理学a(2) 物理学b(2) 物理学c(2) 物理学Ⅱ(2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理(1) 基礎情報処理(1) 深川学(1) 開発プロセス基礎演習(1)				キャリアデザイン(1) OIT概論(1)		基礎電子回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅱ 2 電気回路Ⅱ演習 1 情報通信システム基礎 2 電気回路Ⅱ 2 基礎電子回路Ⅰ 2 電子情報システム実験Ⅰ 2 電気磁気学Ⅰ 2 コンピュータアーキテクチャ 2 電気回路Ⅰ演習 1 電気回路Ⅰ 2 電子情報システム基礎演習 1 コンピュータ基礎 2		卒業研究		電磁気学Ⅱ 2		固体エレクトロニクス 2 電気回路Ⅲ 2		システム工学 2 データ解析 2		信号とシステム 2 アルゴリズムとデータ構造 2		31 単位						
前期・後期		● 必修科目 ■ 選択必修科目 □ クォーター科目の開講 ○ 不関講科目				1				2		3		4		5		6		7		8 単位								
分野		キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理学と教育		その他連携		分野		基礎		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		システム系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数 44単位								
カリキュラムポリシー		<工学部カリキュラム・ポリシー> 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開講し、学習者が主体的に学修できる科目を選択し、科目間の連携を高める体系的カリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、教育、データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。 4) 探究・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成となる卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要能力を養う。 ◆注:「3)」「4)」「5)」「6)」を明細化したものが、各学科のDPとなる																												
アドミッションポリシー		電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。 (求める人物像) (1) コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 (2) 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 (3) 自ら進んで学ぶという意欲のある人																												

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い論理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的知識を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 																											
配当単位数合計		13単位				20単位				配当単位数合計		14単位		10単位		12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位			
M2 M1		●:必修科目 ■:選択必修科目 □:クォーター科目の開講期 ○:不開講科目		グローバルテクノロジー特論b 1		エンジニアリング・コミュニケーション特論 1		材料・デバイス開発実務特論 3		ロボティクス特論 2		CAD/CAM特論 2		ソフトウェア工学特論 2		パルスパワー工学特論 2		エネルギー・環境工学特論 2										97単位	
前期・後期				グローバルテクノロジー特論a 1		航空宇宙工学特論 2		自動車工学特論 2		表示デバイス工学特論 2		光機能工学特論 2		計算機工学特論 2		パワーエレクトロニクス特論 2		最速システム工学特論 2		材料設計工学特論 2		振動工学特論 2		内燃機関特論 2		機械制御特論 2		加工工学特論 2	
分野		数理科目		学際科目		専門横断				光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械力学		熱・流体		設計・製作		97単位		年間履修上限単位数なし			
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門I」「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の開連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にわたる的確なものの見方と考え方を確立する。 																											
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長して意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																											
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>〈工学部〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生進にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】[主体的に生進学習を継続する意欲と関心] 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者との協働による課題解決力] 地球規模の視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] <p>◆注「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>〈電子情報システム工学科〉</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識を応用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構築することができる。【人文科学・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身に付いている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力【D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p> <p style="text-align: right;">【 】はディプロマ・サプリメントシステムにおける表示内容</p>																											
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養ならびに思考・批判力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、実践的に社会や産業界に貢献する方向を備えている。				工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。				数学や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。		電気回路などの専門的知識を身に付けている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。		技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作り出すシステム技術を構想できる。		情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。		卒業に必要な単位数124単位									
配当単位数合計		-				-				配当単位数合計		35単位		6単位		24単位		24単位		89単位									
通年		哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本の歴史(2) 法学(日本国憲法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリア・コミュニケーションⅠa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅠb(1) 工学コミュニケーション英語基礎Ⅰ(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)				微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 淀川と環境(1) 宇宙・地球・生命-探究演習(1) 工学倫理(2)				級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2)		インターンシップ(2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)		通年		卒業研究		情報と職業 2 電波・通信法規 2		メディア情報開発 2 ネットワーク設計 2		情報理論 2							
前期・後期		2 5 4				4				前期・後期		3		情報社会と倫理 2		光エレクトロニクス 2 デジタル電子回路 2 半導体デバイス基礎 2 アナログ電子回路 2 電気磁気学Ⅲ 2		半導体デバイス工学 2 電子回路設計 2 レーザー工学 2 制御工学 2		コンピュータシステム 2 デジタル信号処理 2 コンピュータグラフィクス 2 ネットワーク工学 2 通信方式Ⅰ 2		通信方式Ⅱ 2 無線通信工学 2 電磁波工学 2							
前期・後期		1				2				前期・後期		1		基礎電子回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅱ 2 電気回路Ⅱ演習 1 電気回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅰ 2 電気回路Ⅰ演習 1 電気回路Ⅰ 2 電子情報システム基礎演習Ⅰ 1		情報通信基礎 2 固体エレクトロニクスⅠ 2 基礎電子回路Ⅰ 2 電気磁気学Ⅰ 2 コンピュータアーキテクチャ 2		電気回路Ⅲ 2 固体エレクトロニクスⅡ 2		伝送理論 2		電気計測 2							
分野		キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理学と教育		その他連携		分野		基幹		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		97単位		年間履修上限単位数44単位							
カリキュラムポリシー		<p>〈工学部カリキュラム・ポリシー〉</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開講し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 履修した英語教養によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力やの意欲を養う。 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注「3」(4) (5) (6)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p>																											
アドミッションポリシー		<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 自ら進んで学ぼうという意欲のある人 																											

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 										97 単位											
記号単位数合計		13 単位			19 単位			14 単位		10 単位		12 単位		6 単位		8 単位		6 単位		8 単位		96 単位	
M2 M1	前期・後期	●●:必修科目		●:選択必修科目		□:不開講科目						エネルギー・環境工学特論 2											
		グローバルテクノロジー特論b 1		エンジニアリング・コミュニケーション特論 1						ソフトウェア工学特論 2		パルスパワー工学特論 2											
分野		数理科目		学際科目		専門横断		分野		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械力学		熱・流体		設計・製作	
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することになり、ユニバーサルな視点にたつた確かなもの見方と考え方を確立する。 																				年間履修上限単位数なし	
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																				年間履修上限単位数なし	
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生進にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を保持できる。【関心・意欲】主体的に生進学習を継続する意欲と関心 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の変遷に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の構築・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】 <p>●注:「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>◆電子情報システム工学科</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-1) 数学や自然科学の基礎的知識と応用力【A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。【B-1) 人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができる。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。【C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みることができる。【D-1) 電磁気学・電気回路・電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路に必要な知識・技能】D-2) 電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3) 情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4) 電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E) 自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。【E-1) チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) きさまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p> <p>【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表</p>																				96 単位	
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的教養・能力として、広い視野と他の自然科学関連の基礎的知識と、言語の基礎的知識を応用した内容に関する深い思考・判断ができることと、心身の健康を維持増進する方を備えている。		工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的教養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できることと、深い人間性を備えた社会の発展に寄与することに、実践的に他者と協働するなど専門分野における学修意欲を増進する。		数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できることと、深い人間性を備えた社会の発展に寄与することに、実践的に他者と協働するなど専門分野における学修意欲を増進する。		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的教養・能力として、広い視野と他の自然科学関連の基礎的知識と、言語の基礎的知識を応用した内容に関する深い思考・判断ができることと、心身の健康を維持増進する方を備えている。		電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。		技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができている。		電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。		情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術を用いたシステムの利用と開発に活用することができる。		卒業に必要な単位数124単位					
記号単位数合計		35 単位			6 単位		24 単位		24 単位		24 単位		89 単位										
2 5 4		前期・後期		4 前期・後期		3 前期・後期		2 前期・後期		1 前期・後期		卒業研究		6 単位		44 単位							
1		前期・後期		2 前期・後期		1 前期・後期		2 前期・後期		1 前期・後期		2 前期・後期		27 単位		8 単位							
分野		キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理科学と教育		その他		分野		基幹		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数44単位			
カリキュラムポリシー		<p>＜工学部カリキュラム・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選択し、履修し、科目間の連携を促した体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 4) 実験・実習・技術演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働能力を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>●注:「3)4)5)6)」を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>																				年間履修上限単位数44単位	
アドミッションポリシー		<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 (2) 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 (3) 自ら進んで学ぶという意欲のある人 																				年間履修上限単位数44単位	

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎理論と複合的な専門知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い論理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的知識を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 																															
配当単位数合計		13単位				20単位				配当単位数合計		14単位		10単位		12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位							
M2 M1	前期・後期	●:必修科目 ■:選択必修科目 □:クォーター科目の開講期 ○:不開講科目		グローバルテクノロジー特論b 1		エンジニアリング・コミュニケーション特論 1		材料・デバイス開発実務特論 3		ロボティクス特論 2		CAD/CAM特論 2		ソフトウェア工学特論 2		パルスパワー工学特論 2		エネルギー・環境工学特論 2										97単位					
		グローバルテクノロジー特論a 1		航空宇宙工学特論 2		自動車工学特論 2		表示デバイス工学特論 2		光機能工学特論 2		計算機工学特論 2		パワーエレクトロニクス特論 2		電力工学特論 2		最速システム工学特論 2		材料設計工学特論 2		振動工学特論 2		内燃機関特論 2		機械制御特論 2							
分野		数理科目		学際科目		専門横断		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械力学		熱・流体		設計・製作		共通横断		専門横断		エレクトロニクス・情報分野		電機・制御分野		機械工学分野		年間履修上限単位数なし	
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門」:「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の開連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通して、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にわたる的確なものの見方と考え方を確立する。 																															
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長して意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																															
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>〈工学部〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生進にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】[主体的に生進学習を継続する意欲と関心] 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者との協働による課題解決力] 地球規模の視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] <p>◆注:「3」は明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>〈電子情報システム工学科〉</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎知識を応用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文社会科学や自然科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構築することができる。【人文社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身に付いている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を身につけて活用できる。【電気回路等の専門的知識と活用能力】D-1) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-2) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p> <p style="text-align: right;">【 】はディプロマ・サブプリメントシステムにおける表示内容</p>																															
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養ならびに思考・批判力と、言語的基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力を実現できるとともに、実践的に社会や産業界に貢献する方向を備えている。				工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭に、広い視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。				数学や他の自然科学関連のより構造的な知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭に、広い視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。				電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。				技術者として必要な社会倫理を理解している。				電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作り出すシステム技術を構想できる。				情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。				卒業に必要な単位数124単位			
配当単位数合計		-				-				配当単位数合計		36単位		6単位		26単位		26単位		94単位													
通年		哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本の歴史(2) 法学(日本国憲法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリア・コミュニケーションⅠa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅡb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)				微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 淀川と環境(1) 宇宙・地球・生命-探究演習(1) 工学倫理(2)				級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2)				インターンシップ(2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)		通年		卒業研究		情報と職業 2 電波・通信法規 2		メディア情報開発 2 ネットワーク設計 2		映像・音響工学 2 情報理論 2		12単位							
前期・後期		工学コミュニケーション英語基礎a(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)				解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 線形代数Ⅰ(2) 線形代数Ⅱ(2) 物理学a(2) 物理学b(2) 物理学c(2) 物理学d(2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ(1) 基礎情報処理Ⅱ(1) 淀川と人間(1) エンジニアリング探求演習(1)				キャリアデザイン(1) OIT概論(1)		4 前期・後期		情報と職業 2 電波・通信法規 2		光エレクトロニクス 2 デジタル電子回路 2 半導体デバイス基礎 2 アナログ電子回路 2 電気磁気学Ⅲ 2		半導体デバイス工学 2 電子回路設計 2 レーザ工学 2 制御工学 2		コンピュータシステム 2 デジタル信号処理 2 コンピュータグラフィクス 2 ネットワーク工学 2 通信方式Ⅰ 2		通信方式Ⅱ 2 無線通信工学 2 電磁波工学 2		45単位									
前期・後期		世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ペーシック・イングリッシュa(1) ペーシック・イングリッシュab(1) オーストラリア・コミュニケーションⅠa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅠb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)				解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 線形代数Ⅰ(2) 線形代数Ⅱ(2) 物理学a(2) 物理学b(2) 物理学c(2) 物理学d(2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ(1) 基礎情報処理Ⅱ(1) 淀川と人間(1) エンジニアリング探求演習(1)				キャリアデザイン(1) OIT概論(1)		3 前期・後期		基礎電子回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅱ 2 電気回路Ⅱ演習 1 電気回路Ⅱ 2 電子情報システム実験Ⅰ 2 電気回路Ⅰ演習 1 電気回路Ⅰ 2 電子情報システム基礎演習Ⅰ 1		電子回路演習 1 電気磁気学演習 1 プログラミング・同演習 3		情報社会と倫理 2		電気回路Ⅲ 2 固体エレクトロニクスⅡ 2 量子エレクトロニクス入門 2		伝送理論 2		電気計測 2		29単位							
分野		キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理学と教育		その他連携		分野		基幹		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数44単位													
カリキュラムポリシー		<p>「工学部カリキュラム・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開講し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 履修した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 実験・実習・探求演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力やの意欲を養う。 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注:「3」「4」「5」「6」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p>																															
アドミッションポリシー		<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 自ら進んで学ぼうという意欲のある人 																															

ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 												97 単位
記号単位数合計	13 単位	19 単位	記号単位数合計	14 単位	10 単位	12 単位	6 単位	8 単位	6 単位	8 単位	96 単位		
M2 M1 前期・後期	●●:必修科目 □:不開講科目		グローバルテクノロジー特論b 1	エンジニアリング・コミュニケーション特論 1	ソフトウェア工学特論 2	エネルギー・環境工学特論 2							
	材料・デバイス開発実務特論 3	ロボティクス特論 2	CAD/CAM特論 2	半導体エレクトロニクス特論 2	通信システム・方式特論 2	パルスパワー工学特論 2							
	グローバルテクノロジー特論a 1	航空宇宙工学特論 2	自動車工学特論 2	表示デバイス工学特論 2	光機能工学特論 2	電力工学特論 2							
	応用数学特論 2	技術経営特論 2	国際ナショナルプレゼンテーション 1	フォトニクス工学特論 2	半導体デバイス工学特論 2	電力工学特論 2							
	応用物理学特論 2	外国語特論 2	● フィールド研究 4	電子物性特論 2	集積回路設計特論 2	電磁波工学特論 2							
			フィールドプラクティス 4			情報工学特論 2							
分野	数理科目	学際科目	専門横断	光・エレクトロニクス		情報・通信	エネルギー・機器	制御・システム	材料・機械力学	熱・流体	設計・製作		
	共通横断		エレクトロニクス・情報分野		電機・制御分野		機械工学分野						

「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。

「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。

「共通横断」では数理分野、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することになり、ユニバーサルな視点にたつた確かなもの見方と考え方を確立する。

「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまず進んでいく学生を求めている。

〈求める人物像〉

- 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人
- 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人
- 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

＜工学部＞

- 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生進にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を保持できる。【関心・意欲】主体的に生進学習を継続する意欲と関心
- 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】
- 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の変遷に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】
- 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】
- 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】
- 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の構築・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に積極的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】

◆注:「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる

＜電子情報システム工学科＞

電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

- 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-1) 数学や自然科学の基礎知識と応用力【A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】
- 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。D-1) 人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構築することができる。【人文社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚】D-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができています。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】
- 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】
- 電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みすることができる。D-1) 電磁気学・電気回路・電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路に必要な知識・技能】D-2) 電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3) 情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4) 電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】
- 主体的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) きさまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】

【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表

分野別到達目標	<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的教養・能力として、広い視野・人文科学的教養と専門的知識・技能の自然な融合による総合的な知識・理解・応用能力を身に付ける。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</p> <p>工学の観点から社会を持続的に発展させるための基礎的知識・技能として、数学・物理学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できることにも、深い人間性を備えた社会の発展に寄与することに、積極的に他者と協働するなどの専門分野における学修意欲を増進する。</p>	<p>電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p>	<p>技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができています。</p>	<p>電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作りだすことができる。</p>	<p>情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。</p>	卒業に必要な単位数124単位
---------	---	--	--	--	---	----------------

記号単位数合計	36 単位	6 単位	26 単位	26 単位	94 単位
---------	-------	------	-------	-------	-------

2 5 4 前期・後期	<p>哲学(2)</p> <p>倫理学(2)</p> <p>美術史(2)</p> <p>文学(2)</p> <p>日本語の歴史(2)</p> <p>法学(日本国憲法)(2)</p> <p>経済学(2)</p> <p>歴史学(2)</p> <p>心理学(2)</p> <p>日本の伝統と文化(2)</p> <p>国際関係論(2)</p> <p>日本の文化と社会Ⅰ(2)</p> <p>日本の文化と社会Ⅱ(2)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅡa(1)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅡb(1)</p> <p>工学コミュニケーション英語基礎a(1)</p> <p>工学コミュニケーション英語基礎b(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅠa(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅠb(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅡa(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅡb(1)</p> <p>英語プレゼンテーションⅠ(各)(各)</p> <p>中国語コミュニケーション(1)</p> <p>中国語と現代中国事情(1)</p> <p>生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各)</p>	<p>微分方程式Ⅰ(2)</p> <p>微分方程式Ⅱ(2)</p> <p>ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2)</p> <p>知的財産法概論(2)</p> <p>品質管理(2)</p> <p>確率と統計Ⅰ(2)</p> <p>確率と統計Ⅱ(2)</p> <p>深川と環境(1)</p> <p>宇宙・地球・生命-探究演習(1)</p> <p>工学倫理(2)</p>	<p>級数とフーリエ解析(2)</p> <p>ベクトル解析(2)</p> <p>線形代数Ⅲ(2)</p> <p>線形代数Ⅳ(2)</p> <p>複素解析Ⅰ(2)</p> <p>複素解析Ⅱ(2)</p> <p>応用数学Ⅰ(2)</p> <p>応用数学Ⅱ(2)</p> <p>実践化学(2)</p> <p>地球システムと人間(2)</p> <p>環境生物学(2)</p> <p>人間発達と人権(2)</p> <p>教育原論(2)</p>	<p>インターナショナルプレゼンテーションa(1)</p> <p>グローバルテクノロジー論b(1)</p>	<p>通年</p> <p>4</p> <p>前期・後期</p>	<p>卒業研究</p>	<p>8 単位</p>
	2	<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅱ演習(1)</p> <p>解析学Ⅲ(2)</p> <p>解析学Ⅳ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>線形代数Ⅱ(2)</p> <p>物理学a(2)</p> <p>物理学b(2)</p> <p>物理学c(2)</p> <p>物理学d(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ(1)</p> <p>基礎情報処理Ⅱ(1)</p> <p>深川と人間(1)</p> <p>エンジニアリング探究演習(1)</p>	<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>	<p>3</p> <p>前期・後期</p>	<p>情報社会と倫理 2</p> <p>電波・通信法規 2</p>	<p>メディア情報開発 2</p> <p>映像・音響工学 2</p> <p>ネットワーク設計 2</p> <p>情報理論 2</p>	<p>45 単位</p>
1	<p>世界と人間(2)</p> <p>文章表現基礎(2)</p> <p>プレゼンテーションⅠa(1)</p> <p>プレゼンテーションⅠb(1)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅠa(1)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅠb(1)</p> <p>海外語学研修(2)</p> <p>日本語Ⅰ(2)</p> <p>日本語Ⅱ(2)</p> <p>健康体育Ⅰ(1)</p> <p>健康体育Ⅱ(1)</p>	<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅱ演習(1)</p> <p>解析学Ⅲ(2)</p> <p>解析学Ⅳ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>線形代数Ⅱ(2)</p> <p>物理学a(2)</p> <p>物理学b(2)</p> <p>物理学c(2)</p> <p>物理学d(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ(1)</p> <p>基礎情報処理Ⅱ(1)</p> <p>深川と人間(1)</p> <p>エンジニアリング探究演習(1)</p>	<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>	<p>1</p> <p>前期・後期</p>	<p>● エレクトロニクスプラクティス 2</p> <p>● 電子情報システム実験Ⅲ 2</p> <p>基礎電子回路Ⅱ 2</p> <p>● 電子情報システム実験Ⅱ 2</p> <p>電気回路Ⅱ演習 1</p> <p>● 電気回路Ⅱ 2</p> <p>● 電子情報システム実験Ⅰ 2</p> <p>電気回路Ⅰ演習 1</p> <p>● 電気回路Ⅰ 2</p> <p>● 電子情報システム基礎演習 1</p>	<p>電子回路演習 1</p> <p>電気磁気学演習 1</p> <p>プログラミング・同演習 3</p> <p>情報通信基礎 2</p> <p>固体エレクトロニクスⅠ 2</p> <p>基礎電子回路Ⅰ 2</p> <p>電気磁気学Ⅰ 2</p> <p>電気磁気学Ⅱ 2</p> <p>コンピュータアーキテクチャ 2</p> <p>コンピュータ基礎 2</p>	<p>29 単位</p>
1	<p>世界と人間(2)</p> <p>文章表現基礎(2)</p> <p>プレゼンテーションⅠa(1)</p> <p>プレゼンテーションⅠb(1)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅠa(1)</p> <p>オラル・コミュニケーションⅠb(1)</p> <p>海外語学研修(2)</p> <p>日本語Ⅰ(2)</p> <p>日本語Ⅱ(2)</p> <p>健康体育Ⅰ(1)</p> <p>健康体育Ⅱ(1)</p>	<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅱ演習(1)</p> <p>解析学Ⅲ(2)</p> <p>解析学Ⅳ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>線形代数Ⅱ(2)</p> <p>物理学a(2)</p> <p>物理学b(2)</p> <p>物理学c(2)</p> <p>物理学d(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ(1)</p> <p>基礎情報処理Ⅱ(1)</p> <p>深川と人間(1)</p> <p>エンジニアリング探究演習(1)</p>	<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>	<p>1</p> <p>前期・後期</p>	<p>● 電子情報システム基礎演習 1</p> <p>コンピュータ基礎 2</p>	<p>電気計測 2</p>	<p>8 単位</p>

分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理学と教育	その他	分野	基幹	技術人材育成・資格関連科目	エレクトロニクス系科目	情報通信系科目	年間履修上限単位数44単位
カリキュラムポリシー	<p>＜工学部カリキュラム・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目選定を取り入れるとともに、科目間の連携を高める体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的生産および健康共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選修(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働力を養う。 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注:「3」4)5)6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>				<p>電子学、情報、通信の基礎となる物理学、数学、用語について習熟し、協働作業を通じて問題解決能力とコミュニケーション能力を高めるとともに、コンピュータの仕組みと電気信号の扱い方を学び、その活用法を身に付け、電子、情報、通信分野の基本的なシステムの構築ができる能力を養う。またチームワークで課題を解決し、その過程と結果をまとめることができる。論理的思考能力とプレゼンテーション能力ならびにコミュニケーション能力を養う。</p>		<p>技術者倫理と国際社会について考え、技術者の役割を自覚して社会に貢献できる意識や力を養う。</p>	<p>電子工学の基礎となる物理物性とそのデバイス応用を理解し、それらを組み合わせた電子回路により、工学的な仕掛けを作りだすシステム技術を構築できる能力を養う。</p>	<p>情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計・構築し、習得した技術を実用システムの利用と開発に応用する能力を養う。</p>	
アドミッションポリシー	<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 自ら進んで学ぶという意欲のある人 									

ディプロマポリシー		電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術能力を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。																																																																			
記号単位数合計		13単位		20単位		記号単位数合計		14単位		10単位		12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位																																															
M2 M1	前期・後期	●●: 必修科目 ○: 選択必修科目 □: 不関講科目		グローバルテクノロジー特論b 1	エンポーリアブ/コミュニケーション特論 1	M2 M1	前期・後期	半導体エレクトロニクス特論 2	ソフトウェア工学特論 2	エネルギー・環境工学特論 2	M2 M1	前期・後期	パルスパワー工学特論 2	材料設計工学特論 2	加工工学特論 2	材料・デバイス開発実務特論 3	ロボティクス特論 2	GAD/CAM特論 2	グローバルテクノロジー特論a 1	航空宇宙工学特論 2	自動車工学特論 2	表示デバイス工学特論 2	光機能工学特論 2	計算機工学特論 2	パワーエレクトロニクス特論 2	最適システム工学特論 2	振動工学特論 2	内燃機関特論 2	機械制御特論 2	グローバルテクノロジー特論a 1	インターナショナルプレゼンテーション 1	グローバルリーダシップ特論 2	フォトニクス工学特論 2	半導体デバイス工学特論 2	電磁波工学特論 2	メカトロニクス特論 2	システム制御工学特論 2	材料実験力学特論 2	流体工学特論 2	接合工学特論 2	応用数学特論 2	技術経営特論 2	インクアテンション 1	グローバルリーダシップ特論 2	電子物性特論 2	集積回路設計特論 2	情報工学特論 2	プラズマ工学特論 2	インテリジェントメカニクス特論 2	機能材料工学特論 2	伝熱工学特論 2	航空工学特論 2	応用物理学特論 2	外国語特論 2	● フィールド研究 4	フィールドプラクティス 4	分野	数理科科目	学際科目	専門横断	分野	光・エレクトロニクス	情報・通信	エネルギー・機器	制御・システム	材料・機械力学	熱・流体	設計・製作	年間履修上限単位数なし
		共通横断		専門横断				光・エレクトロニクス		情報・通信			エネルギー・機器				制御・システム			材料・機械力学			熱・流体		設計・製作		電機・制御分野		機械工学分野																																								
カリキュラムポリシー		「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にたつた確かなもの見方と考え方を確立する。																																																																			
アドミッションポリシー		「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決力を持って、それを実現するために努力を惜しまない学生を求めている。 (求める人物像) ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心もち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																																																																			
ディプロマポリシー		4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 《工学部》 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】[主体的に生涯学習を継続する意欲と関心] 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けることができる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる教養・情報系の素養] 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者との協働による課題解決] 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] ◆注(3)を明確化したものが、各学科のDPとなる 《電子情報通信工学科》 電子情報通信工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識を応用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】 (B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文社会科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】 (C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】 (D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力【D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】 (E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) ささまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】																																																																			
ディプロマ		【 】はディプロマ・サブリエメントシステムにおける表示内容																																																																			
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野と人文学的教養にたつた思考・判断力と、言語の基礎知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方を養成している。		工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基礎的知識を理解・応用し、活用できるとともに、深い見識に基づいて思考・判断ができることと、実践的に他者と協働するなどで専門分野における学修意欲を喚起する。		数学や他の自然科学関連のより総合的な知識を理解・応用できるとともに、深い見識に基づいて思考・判断ができることと、実践的に他者と協働するなどで専門分野における学修意欲を喚起する。		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。		分野別到達目標		電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。		技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作りだすシステム技術を構想できる。		情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関する数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。		卒業に必要な単位数 124単位																																																	
記号単位数合計		-		-		-		-		記号単位数合計		36単位		6単位		26単位		26単位		94単語																																																	
2 1 4	前期・後期	哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本語の歴史(2) 法学(日本国憲法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会(2) 日本の文化と社会(2) オーストラリア・コミュニケーションⅡa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅡb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) 工学コミュニケーション英語基礎b(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa(1) 英語プレゼンテーションb(1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)		微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 深川と環境(1) 宇宙・地球・生命-探求演習(1) 工学倫理(2)		線形代数Ⅰ(2) ベクトル解析(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2) 道徳教育(2)(~2018)		インターナショナル(2) グローバルテクノロジー特論a(1) グローバルテクノロジー特論b(1)		4 前期・後期		卒業研究		情報と職業 2 電波・通信法規 2		メディア情報開発 2 映像・音響工学 2 ネットワーク設計 2 情報理論 2		コンピュータシステム 2 デジタル信号処理 2 コンピュータグラフィクス 2 通信方式Ⅱ 2 ネットワーク工学 2 無線通信工学 2 通信方式Ⅰ 2 電磁波工学 2		12単位																																																	
		世界と人間(1) 文芸表現基礎(2) ペーシング・イングリッシュa(1) ペーシング・イングリッシュb(1) オーストラリア・コミュニケーションⅠa(1) オーストラリア・コミュニケーションⅠb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)		解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ演習(1) 解析学Ⅲ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 線形代数Ⅱ(2) 線形代数Ⅲ(2) 物理学a(2) 物理学b(2) 物理学c(2) 物理学d(2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ(1) 基礎情報処理Ⅱ(1) 深川と人間(1) エンジニアリング探求演習(1)		キャリアデザイン(1) OIT概論(1)		2 前期・後期		基礎電子回路Ⅱ 2 電子情報通信実験Ⅱ 2 情報通信基礎 2 電気回路Ⅱ演習 1 固体エレクトロニクスⅠ 2 電気回路Ⅱ 2 基礎電子回路Ⅰ 2 電気磁気学Ⅱ 2 電子情報通信実験Ⅰ 2 電気磁気学Ⅰ 2 コンピュータアーキテクチャ 2		情報社会と倫理 2		電気回路Ⅲ 2 固体エレクトロニクスⅡ 2 量子エレクトロニクス入門 2		伝送理論 2		29単位																																																			
前期・後期		1 前期・後期		1 前期・後期		1 前期・後期		1 前期・後期		1 前期・後期		電気計測 2		8単位																																																							
分野		キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理学と教育		その他選修		分野		基礎		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数 44単位																																																	
カリキュラムポリシー		《工学部カリキュラム・ポリシー》 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高める体系的カリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語学習によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して提供する。 4) 実験・実習・探求演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学習する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成となる卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ◆注(3)(4)(5)(6)を明確化したものが、各学科のGPとなる																																																																			
アドミッションポリシー		電子情報通信工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。 (求める人物像) 1) コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 2) 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 3) 自ら進んで学ぼうという意欲のある人																																																																			

<p>ディプロマポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 		<p>13単位</p> <p>●●:必修科目</p> <p>○:選択必修科目</p> <p>□:不関講科目</p> <table border="1"> <tr> <td>グローバルテクノロジー特論b</td> <td>1</td> <td>エン지니어リング・コミュニケーション特論</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>材料・デバイス開発実務特論</td> <td>3</td> <td>ロボティクス特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>グローバルテクノロジー特論a</td> <td>1</td> <td>CAD/CAM特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>航空宇宙工学特論</td> <td>2</td> <td>自動車工学特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>国際化特論</td> <td>2</td> <td>技術経営特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>インターナショナルプレゼンテーション</td> <td>1</td> <td>グローバルリーダーシップ特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>応用物理学特論</td> <td>2</td> <td>外国語特論</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>フィールド研究</td> <td>4</td> <td>フィールドプラクティス</td> <td>4</td> </tr> </table>		グローバルテクノロジー特論b	1	エン지니어リング・コミュニケーション特論	1	材料・デバイス開発実務特論	3	ロボティクス特論	2	グローバルテクノロジー特論a	1	CAD/CAM特論	2	航空宇宙工学特論	2	自動車工学特論	2	国際化特論	2	技術経営特論	2	インターナショナルプレゼンテーション	1	グローバルリーダーシップ特論	2	応用物理学特論	2	外国語特論	2	フィールド研究	4	フィールドプラクティス	4	<p>20単位</p> <p>20単位</p>		<p>14単位</p> <p>14単位</p>		<p>10単位</p> <p>10単位</p>		<p>12単位</p> <p>12単位</p>		<p>6単位</p> <p>6単位</p>		<p>8単位</p> <p>8単位</p>		<p>6単位</p> <p>6単位</p>		<p>8単位</p> <p>8単位</p>		<p>97単位</p> <p>97単位</p>	
グローバルテクノロジー特論b	1	エン지니어リング・コミュニケーション特論	1																																																		
材料・デバイス開発実務特論	3	ロボティクス特論	2																																																		
グローバルテクノロジー特論a	1	CAD/CAM特論	2																																																		
航空宇宙工学特論	2	自動車工学特論	2																																																		
国際化特論	2	技術経営特論	2																																																		
インターナショナルプレゼンテーション	1	グローバルリーダーシップ特論	2																																																		
応用物理学特論	2	外国語特論	2																																																		
フィールド研究	4	フィールドプラクティス	4																																																		
<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>94単位</p>																																	
<p>分野</p> <p>共通横断</p> <p>専門横断</p>		<p>分野</p> <p>光・エレクトロニクス</p> <p>情報・通信</p>		<p>分野</p> <p>エレクトロニクス・情報分野</p>		<p>分野</p> <p>エネルギー・機器</p> <p>制御・システム</p>		<p>分野</p> <p>材料・機械工学</p> <p>熱・流体</p>		<p>分野</p> <p>設計・製作</p>		<p>年間履修上限単位数なし</p>		<p>年間履修上限単位数なし</p>		<p>年間履修上限単位数なし</p>		<p>年間履修上限単位数なし</p>		<p>年間履修上限単位数なし</p>																																	
<p>カリキュラムポリシー</p> <p>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できること。</p> <p>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</p> <p>「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな視点にたつた的確なもの見方と考え方を確立する。</p>		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜むことなく進捗できる学生を求めている。</p>		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜学部＞</p> <p>1)実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。(関心・意欲)【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</p> <p>2)人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけられることができる。(知識・理解・技能)【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</p> <p>3)専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれを実践的に活用できる。(理解・応用・技能)【専門分野の知識・技術(詳細な理解)】</p> <p>4)技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。(協働・表現)【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</p> <p>5)社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。(意欲・協働)【他者との協働による課題解決力】</p> <p>6)地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。(理解・応用・倫理)【社会に対し能動的に貢献する行動力】</p> <p>●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報通信工学＞</p> <p>電子情報通信工学では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-1)コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B)国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。B-1)人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2)技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職人として社会に貢献する自覚ができています。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】</p> <p>(C)国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1)日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2)外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3)技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D)電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みることができる。D-1)電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路の知識】D-2)電子デバイスとハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3)情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4)電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E)自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1)チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p> <p>【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表示内容</p>		<p>分野別到達目標</p> <p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文科学的素養・思考・判断力と、言語的基礎知識を応用した汎用的なコミュニケーション力が発揮できるとともに、高い専門性に基づく社会の発展に寄与するとともに、実践的な知識を継続的に更新する方針を備えている。</p> <p>工学的観点から社会を積極的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理・化学や他の自然科学関連のより総合的な知識を理解・応用できるとともに、高い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。</p> <p>数学や他の自然科学関連のより総合的な知識を理解・応用できるとともに、高い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。</p> <p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、数学・自然科学の基礎知識と応用力【A-2)コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B)国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。B-1)人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2)技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職人として社会に貢献する自覚ができています。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】</p> <p>(C)国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1)日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2)外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3)技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D)電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みることができる。D-1)電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路の知識】D-2)電子デバイスとハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3)情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4)電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E)自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1)チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p>		<p>36単位</p> <p>36単位</p>		<p>6単位</p> <p>6単位</p>		<p>26単位</p> <p>26単位</p>		<p>26単位</p> <p>26単位</p>		<p>94単位</p> <p>94単位</p>																																			
<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>		<p>通年</p>																																	
<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>																																	
<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>		<p>前期・後期</p>																																	
<p>分野</p> <p>キャリア形成の基礎</p> <p>工学の基礎</p> <p>数理学と教育</p> <p>その他連携</p>		<p>分野</p> <p>基礎</p>		<p>分野</p> <p>技術人材育成・資格関連科目</p>		<p>分野</p> <p>エレクトロニクス系科目</p>		<p>分野</p> <p>情報通信系科目</p>		<p>年間履修上限単位数44単位</p>		<p>年間履修上限単位数44単位</p>		<p>年間履修上限単位数44単位</p>		<p>年間履修上限単位数44単位</p>		<p>年間履修上限単位数44単位</p>																																			
<p>カリキュラムポリシー</p> <p>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できること。</p> <p>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</p> <p>「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな視点にたつた的確なもの見方と考え方を確立する。</p>		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜学部＞</p> <p>1)実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。(関心・意欲)【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</p> <p>2)人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけられることができる。(知識・理解・技能)【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</p> <p>3)専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれを実践的に活用できる。(理解・応用・技能)【専門分野の知識・技術(詳細な理解)】</p> <p>4)技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。(協働・表現)【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</p> <p>5)社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。(意欲・協働)【他者との協働による課題解決力】</p> <p>6)地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。(理解・応用・倫理)【社会に対し能動的に貢献する行動力】</p> <p>●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報通信工学＞</p> <p>電子情報通信工学では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-1)コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B)国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。B-1)人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2)技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職人として社会に貢献する自覚ができています。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】</p> <p>(C)国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1)日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2)外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3)技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D)電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みることができる。D-1)電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路の知識】D-2)電子デバイスとハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3)情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4)電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E)自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1)チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p>		<p>電子情報通信工学では、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身につけ、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身につけた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜まない学生の入学を求めています。</p>		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜学部＞</p> <p>1)実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。(関心・意欲)【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</p> <p>2)人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけられることができる。(知識・理解・技能)【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</p> <p>3)専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれを実践的に活用できる。(理解・応用・技能)【専門分野の知識・技術(詳細な理解)】</p> <p>4)技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。(協働・表現)【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</p> <p>5)社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。(意欲・協働)【他者との協働による課題解決力】</p> <p>6)地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。(理解・応用・倫理)【社会に対し能動的に貢献する行動力】</p> <p>●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報通信工学＞</p> <p>電子情報通信工学では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】A-1)コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B)国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。B-1)人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2)技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職人として社会に貢献する自覚ができています。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】</p> <p>(C)国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1)日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2)外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3)技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D)電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組みることができる。D-1)電磁気学、電気回路、電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路の知識】D-2)電子デバイスとハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】D-3)情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】D-4)電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E)自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1)チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】</p>		<p>電子情報通信工学では、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身につけ、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身につけた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜まない学生の入学を求めています。</p>		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																																							

ディプロマポリシー		電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的知識を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。										97 単位																	
配当単位数合計		13単位			20 単位			配当単位数合計		14 単位		10 単位		12 単位		6 単位		8 単位		6 単位		8 単位		97 単位					
M2 M1	前期・後期	●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		94 単位					
		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		●● 必修科目		94 単位					
分野		共通横断			専門横断			分野		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作		年間履修上限単位数なし					
カリキュラムポリシー		「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通して、自身の考えや「専門横断」では、研究分野の専門知識、技能を深めることにも、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では、数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なもの見方と考え方を確立する。																											
アドミッションポリシー		「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまないことと邁進できる学生を求めている。 (求める人物像) ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																											
ディプロマポリシー		4年以内で卒業して所定の単位数を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、卒業(工学)学位を授与する。 《工学部》 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を保持できる。【関心・意欲】主体的に生涯学習を継続する意欲と関心 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけてそれらを活用できる。【知識・理解・技能】技術者に求められる文・理・情報系の素養 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や現代の課題に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】専門分野の知識・技術【詳細は学科OP】 4) 技術者および社会人としてささいなコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】相互に理解し議論するコミュニケーション能力 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】他者との協働による課題解決力 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】社会に対し能動的に貢献する行動力 ◆注「3)4)5)6)」を明確化したものが、各学科のOPとなる 《電子情報通信工学科》 電子情報通信工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識と応用力A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文章・統計資料の作成と情報検索能力】 (B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文社会科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文社会・社会科学の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】 (C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語による論理的な表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】 (D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェア/ソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】 (E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを遂行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) さざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】 【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表示内容																											
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人としての基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養ならびに「思考・判断力」と「コミュニケーション」が期待できることにも、実践的に自身の健康を維持管理する方を備えている。			工学の観点から社会を持続的に発展させるための基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学の基礎的知識と理解・応用し、自然環境との共生を念頭に置いた思考・判断ができることにも、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を推進する。			グローバル化の時代に対応できる社会人としての基礎的素養・能力や、工学の観点から社会を持続的に発展させるための基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養ならびに「思考・判断力」と「コミュニケーション」が期待できることにも、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を推進する。			電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続することができる。		技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを伴ったシステム技術を構想できる。		情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関する数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術やシステムの利用と開発に応用することができる。		卒業に必要な単位数124単位										
配当単位数合計		-			-			配当単位数合計		36 単位		6 単位		26 単位		26 単位		98 単位											
通年		哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本語の歴史(2) 法学(日本国憲法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) 日本の文化と社会Ⅲ(2) オーストラリアⅡa(1) オーストラリアⅡb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) 工学コミュニケーション英語基礎b(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa・b(各1) 中国語コミュニケーション(1) 中国語と現代中国事情(1) 生涯スポーツⅠⅡ(各1)			微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 流川と環境(1) 宇宙・地球・生命-探求演習(1) 工学倫理(2)			級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2) 道徳教育の研究(2)			インターンシップ(2) グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1)		通年		卒業研究		4		4 単位										
前期・後期		世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ベネチア・イングリッシュa(1) ベネチア・イングリッシュb(1) オーストラリアⅠa(1) オーストラリアⅠb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)			解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ(1) 解析学Ⅳ(2) 解析学Ⅴ演習(1) 線形代数Ⅰ(2) 線形代数Ⅱ(2) 物理学a(2) 物理学b(2) 物理学c(2) 物理学d(2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ(1) 基礎情報処理Ⅱ(1) 流川と人間(1) エンジニアリング探求演習(1)			キャリアデザイン/ キャリアデザインⅠ(1) OIT概論(1)		前期・後期		2		2		2		2		2		2		2		2		2	
前期・後期		1			2			前期・後期		1		1		1		1		1		1		1		1		1			
分野		キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理学と教育		その他連携		分野		基幹		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数48単位							
カリキュラムポリシー		《工学部カリキュラム・ポリシー》 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れることにも、科目間の連携を効果的に体系的カリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目について、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保障する。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保障する。 4) 実験・実習・探求演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の最大限とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ◆注「3)4)5)6)」を明確化したものが、各学科のOPとなる																											
アドミッションポリシー		電子情報通信工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。 (求める人物像) (1) コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 (2) 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことにより、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 (3) 自ら進んで学ぼうという意欲のある人																											

ディプロマポリシー	・電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 ・電気電子工学に関する専門的知識を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。																																
配当単位数合計	13単位			20単位			14単位			10単位			12単位			6単位			8単位			6単位			8単位			97単位					
前期・後期	M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1			M2 M1		
分野	数理科目			学際科目			専門横断			光・エレクトロニクス			情報・通信			エネルギー・機器			制御・システム			材料・機械力学			熱・流体			設計・製作					
カリキュラムポリシー	「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なもの見方と考え方を確立する。																																
アドミッションポリシー	「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまない学生を求めている。 〈求める人物像〉 ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																																
ディプロマポリシー	4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 〈工学部〉 1)実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学習活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】(主体的に生涯学習を継続する意欲と関心) 2)人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】(技術者に求められる文・理・情報系の素養) 3)専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】(専門分野の知識・技術【詳細は学科DP】) 4)技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】(相互に理解し議論するコミュニケーション能力) 5)社会的な課題の解決に向けて、他者と協働的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】(他者との協働による課題解決力) 6)地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ◆注：「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる 〈電子情報通信工学科〉 電子情報通信工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学習として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A)数学や自然科学などの基礎的知識と理解に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】(A-1)数学や自然科学等の基礎的知識を持ち、それらを活用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】(A-2)コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索に習熟している。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】 (B)国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいた判断ができる。【B-1】人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球的な視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文社会科学の知識と社会貢献の自覚】(B-2)技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができてい。【技術者倫理の理解と社会貢献の自覚】 (C)国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身についている。【C-1】日本語による論理的な表現ができる。【日本語での対話能力】(C-2)技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的表現の伝達能力】 (D)電子・情報通信分野の専門知識と技能を蓄積し、それらを総合して課題に取り組むことができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】(D-1)電磁気学・電気回路・電子回路などの知識を身につけている。【電磁気学・電気回路・電子回路の知識】(D-2)電子デバイスとハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。【ハードウェアに必要な知識・技能】(D-3)情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。【ソフトウェア・ネットワークの技能】(D-4)電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】 (E)自主的な学習による課題解決能力を継続的に向上させることができる。【E-1】チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】(E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】(E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】(E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】 【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表示内容																																
分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野と人的交流能力を身につけ、科・学・分野を超えて協働的に取り組むことができる。【グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力】 工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理学の自然現象の基礎的知識と理解に習熟している。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】 数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・行動ができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用力】 グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野と人的交流能力を身につけ、科・学・分野を超えて協働的に取り組むことができる。【グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力】				電磁気学・電気回路・電子回路などの知識を身につけている。電子・情報通信分野の専門的知識を理解して課題解決に適用することができる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。【チームワークによる課題解決能力】(E-2)さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】(E-3)与えられた条件下で課題を解決することができる。【与えられた条件下での課題解決能力】(E-4)自主的な学習の継続を通じて課題解決能力を向上させることができる。【課題解決能力を向上させる能力】										技術者として必要な社会倫理を理解し、専門職業人として社会に貢献する自覚ができてい。			電子デバイスなどハードウェアに必要な知識と技能が修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作ることができる。			情報通信工学に必要な知識とソフトウェアやネットワークの技能が修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。			卒業に必要な単位数124単位									
配当単位数合計	-			-			-			-			36単位			6単位			26単位			26単位			98単位								
通年	2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4		
前期・後期	2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4			2 5 4		
前期・後期	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1			1		
分野	キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理学と教育			その他運携			基礎			技術人材育成・資格関連科目			エレクトロニクス系科目			情報通信系科目			94単位								
カリキュラムポリシー	〈工学部カリキュラム・ポリシー〉 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を確保するとともに、科目の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。 1)人文社会科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2)継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3)必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して確保する。 4)「実習」・「実習」・「実習」・「実習」・「実習」の科目によって、自発的・継続的に学習する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6)学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者としての必要な能力を養う。 ◆注：「3」(4)「5」(6)を明確化したものが、各学科のDPとなる																																
アドミッションポリシー	電子情報通信工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。 〈求める人物像〉 (1)コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 (2)電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 (3)自ら進んで学ぶという意欲のある人																																